

報告書名：良好な歯科医療が 8020 非達成者の QOL に及ぼす影響に関するマッチング試験  
研究者名：佐藤裕二、北川 昇、内田圭一郎  
所 属：昭和大学歯学部高齢者歯科学教室

#### 【緒言】

8020 運動は、明確な目標を歯科医療に与え、高い評価を得つつある。しかしながら、8020 を達成できなかった人を人生の落伍者として見捨ててしまうことは歯科医療の放棄につながる。そこで、本研究では良質な歯科医療により 8020 を達成できなかった人の QOL をいかに高めることができるかを科学的に明らかにし、歯科医療の重要性を提示することを本研究の目的とした。

#### 【方法】

被験者は下顎無歯顎インプラントオーバーデンチャー装着者 10 名(IOD 群)と下顎全部床義歯装着者 35 名とした。まず、IOD 群と下顎全部床義歯装着者 35 名を各種機能評価表(義歯評価表、咀嚼機能評価表、満足度評価表)を用いて比較検討を行った。次に、両群間で年齢、性別、現義歯使用年数、顎堤吸収の状態をマッチング因子としてマッチングテストを行い、抽出した全部床義歯装着者 10 名(以下 CD 群)と IOD 群を新たな被験者とした。顎堤状態は、顎堤スコア算出表を用いて顎堤の断面形態、弾性、高さ、対向関係をスコア化した。その後、IOD 群と CD 群で同様に比較した。得られたデータは、 $\chi^2$ 検定と Student's t-test( $p < 0.05$ )を用いて比較検討した。

#### 【結果】

全部床義歯装着者 35 人の内訳は、平均年齢 71.7 歳、男性 15 名、女性 20 名、義歯使用年数 38.1 ヶ月、顎堤スコア 36.6 点であった。IOD 群の内訳は、平均年齢 60.8 歳、男性 3 名、女性 7 名、現義歯の平均使用年数 27.0 ヶ月、顎堤スコア 20.0 点であった。マッチング因子の適合率は、4 項目平均で 70.1 % であった。また、両群の各機能評価のスコアを比較した結果、満足度評価において有意差は認められなかった。

マッチングテストの結果、全部床義歯装着者 35 名から抽出した CD 群 10 名は、平均年齢 65.3 歳、男性 3 名、女性 7 名、義歯使用年数 24.2 ヶ月、顎堤スコア 20.1 点となった。マッチング因子の平均適合率は 95.4 % となった。

各機能評価のスコアを比較すると、CD 群(義歯評価: 67.3、咀嚼機能評価: 38.5、満足度評価: 54.7)に対して IOD 群(義歯評価: 93.9、咀嚼機能評価: 77.0、満足度評価: 80.8)はすべての機能評価で有意に高い値を示した( $P < 0.05$ )。

#### 【考察】

本研究において、全部床義歯とインプラントオーバーデンチャーの治療効果の判定に、顎堤状態を加味したマッチングテストの有用性が示唆された。

また、全部床義歯と比較して、インプラントオーバーデンチャーの治療効果が高いことが明らかとなった。